

防 除 情 報

平成17年6月15日
長崎県病害虫防除所

平成17年度病害虫発生予察 防除情報第6号

いちご炭疽病の防除対策について

いちご炭疽病が育苗床の親株で発生しています。また、葉枯炭疽病（俗称）も一部地域で発生しています。下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. 発生状況

- (1) 6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、*C.acutatum*による炭疽病（通称：葉枯炭疽病）は発病株率0.1%（平年0.2%）、発生圃場率6%（4%）であった。また、*G.cingulata*による炭疽病は発生を認めなかった（平年の発病株率0.1%、発生圃場率1%）。
- (2) 病害虫防除所への診断依頼の結果から、育苗床の親株において炭疽病の発生が認められた。
- (3) 病害虫防除員による調査結果では、子苗における炭疽病の発生は認められていない。
- (4) 昨年は県内各地で本病が多発しており、育苗圃場などにおける病原菌の密度が高くなっていると予想される。
- (5) 気象予報によると向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量、日照時間は平年並と予想されており、今後の気象次第では発生が増加することが予想される。

2. 防除対策

- (1) 育苗床が多湿にならないように、密植を避け、排水対策を確実に行う。
- (2) 高設育苗や全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。
- (3) 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- (4) 定期的に薬剤防除する。*C.acutatum*による炭疽病には、バイコラール水和剤は防除効果が低いので注意する。